

研究 主題	書くことにつながる力を育む外国語活動の授業づくり － 相手意識を持ってかかわる言語活動の工夫を通して －	研究 分野	小学校
			外国語 活動

第6学年外国語活動指導案

所属校名 大崎市立古川第五小学校

氏名 小野寺 拓

1 単元名 Unit4 「I like my town.」 (文部科学省「We Can!2」)

2 単元の目標

(1) 自分の住んでいる地域にある施設や地域のよさ、願いについて伝え合おうとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(2) 施設の言い方や地域のよさの言い方に慣れ親しむ。

【外国語への慣れ親しみ】

(3) 施設の言い方を知り、日本語と英語の言い方の違いに気付く。

【言語についての知識・理解・技能】

3 単元について

本単元では、「We have～」 「We don't have～」の表現や施設名の単語を扱い、自分の地域にはどんな施設があるかを伝える表現に慣れ親しむことをねらいとしている。また、前単元で学習した「I can～」の表現や「I like～ing」「I want～」の表現を使い、地域のよさや願いを伝える活動を行うことで、地域の一員として自分の住む地域を知り、愛せることができるようになるきっかけを作ることができる単元である。単元初めに、自分たちの住む地域にある施設や地域のよさを知り、その後、自分たちの地域には、今後何が必要なのかを考え、表現する力を養う。

また、本単元では、学習を行いながら、自分たちの住む地域のポスターを少しずつ作成していけるようにする。第1時と第4時に、目的が異なる2つの言語活動を行うことで、意欲を継続させながら、段階的に英語表現に慣れ親しむことができるようにしている。最初の言語活動では、自分の町のよさを伝えるという目的意識を持ち、ALTの友達に紹介するための紹介カードを作るために英語を使う必要感を感じながら取り組むことができる。写真や絵などを添えて、町の紹介カードを作るという過程の中で、児童は英語を使う経験をし、英語を身近に感じるであろう。2つ目の言語活動では、中学生に自分たちの考えを紹介するという目的を持って、住みよい町について考えることで、自分が生活している地域への関心をより高めることができる。また、同じような考えを持つ人たちとグループを組んでポスターを作成することで、互いのアイディアを生かしながら協働で作り上げる喜びを味わうことが期待できる。

2つの言語活動を関連させながら、単元終わりにポスターを使い、グループや学級全体に発表をさせることで、「聞く、話す、読む、書く」という四つの技能を統合的に指導することができる。明確な目的と読み手の顔が見える活動の中、児童に書いて伝える楽しさを味わわせる経験をさせることで、次に学習する文字への興味につなげていく。英語を使って自分の住む地域のことに思いを寄せたり、相手意識を持ってかかわったりすることができる力を育成したい。

単元指導計画（５時間扱い）

時	主な学習活動	評価規準 (評価方法)	使用表現 語彙（施設名）
1	◆ 英語での施設名や施設が地域にあるかな いかの言い方に慣れ親しむ。 ○「単元のゴールを知る①」 ○【Let's Listen1】 ○【Let's Listen2】 ○【Let's Chant】 ・ “We have a park.” ○「ポインティングゲーム」 ○「集中力ゲーム」	言施設を表す言い方 が日本語とは違うもの や似ているものがある ことに気付く。 (行動観察・ワークシ ートの分析)	This is my town. ～ is nice. We have ～. We don't have ～. I like ～. We can～. station, convenience store, library, swimming pool aquarium, department store hospital, park amusement park, bookstore
2	◆ 地域にはどのような施設があるか、ない のかの言い方に慣れ親しむ。 ○【Let's Listen1】 ○【Let's Chant】 ・ “We have a park” ○「ポインティングゲーム」 ○「カード集めゲーム」 ○【Let's Listen3】 ○「Small Talk」 ○「もじもじタイム」 ○「イングリッシュブック」	慣自分の住んでいる地 域にある施設やない施 設について言ったり聞 いたりする。(行動観 察)	This is my town. ～ is nice. We have ～. We don't have ～. I like ～. We can～. station, convenience store, library, swimming pool aquarium, department store hospital, park amusement park, bookstore ※児童の実態により増やす
3	◆ 積極的に自分の地域について紹介する。 ○【Small Talk】 ○【Activity1】 ○【Let's Chant】 ・ “We have a park” ・ “I like my town” ○「もじもじタイム」 ○グループで町の紹介を行う。 ○中学校の先生の話聞く。	コ自分の住んでいる地 域のよさを、友達に進 んで伝えたり聞いたり する。 (行動観察・ワークシ ートの分析)	This is my town. ～ is nice. We have ～. We don't have ～. I like ～. We can～. station, convenience store, library, swimming pool aquarium, department store park, hospital amusement park, bookstore ※児童の実態により増やす
4	◆ 地域にあってほしい施設とその理由につ いての言い方を知る。 ○「単元のゴールを知る②」 ○【Let's Watch and Think1】 ○「ポインティングゲーム」 ○「アルファベット集めゲーム」 ○【Let's Watch and Think2】 ○「もじもじタイム」 ○グループで住みよい町について考える。	慣自分たちの地域にあ ってほしい施設につい て考え、言ったり聞い たりする。 (行動観察・ワークシ ートの分析)	We don't have ～. I want ～. I want to ～. I like ～. station, convenience store, library, swimming pool aquarium, department store park, hospital amusement park, bookstore ※児童の実態により増やす
5	◆ 自分たちの地域について話したことを、 目的意識を持って書く。 ○【Small Talk】 ○「もじもじタイム」 ○グループでポスター発表の練習を行い、 アドバイスをし合う。 ○学級全体で理想の町を発表し合う。	コ自分たちの地域にあ ってほしい施設につい て、友達に進んで伝え たり聞いたりする。 (行動観察・ワークシ ートの分析)	We don't have ～. I want ～. I want to ～. I like ～. ※児童の発表による

コ: 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 慣: 【外国語への慣れ親しみ】 言: 【言語や文化に関する気付き】

時	児童の活動	指導者（担任，ALT等）の活動と使用英語例								
導入	1 挨拶をする。 2 単元の題材を知る。 ※ 児童に慣れ親しませたい語彙や表現を下線部で示す。 3 ALTの友達からのメッセージビデオを見て，単元のゴールを知る。 自分の町を紹介しよう。	- 全体に挨拶した後，ペア同士で挨拶をさせる。 - 簡単な英語表現で児童とやり取りをして，理解させる。 New topic is “<u>town</u>”. ○○ is my town. I’m from ○○ town. △△ is Kochosensei’s town. Kochosensei’s town is △△. <i>Furukawa</i> is your town. Your town is … <i>Furukawa</i>! - 視聴した後に聞こえてきた言葉を確認する。 Mark: Hi, my name is Mark. I am a Matthew’s friend. I heard that your town is so nice. I want to go to <i>Furukawa Daigoshogakko</i> town. Please tell me about your town.								
	言語活動【出会い，必要感・必然性】，相手意識【思いのかかわり】 ALTの友達が児童に話し掛ける映像を流して意欲付けを図る。「古川第五小学校の近くに遊びに来るので，どのような所か紹介してほしい」というお願いをする内容にすることで，ALTの友達に伝えたいという思いや英語を使う必要感を持たせる。また，ALTが町の紹介文を友達に届ける設定にすることで，英語を書く必然性を生み出す。									
	4 ALTの話を聞きながら，町にあるものとなないものの言い方を知る。 <table><tr><td>○have</td><td>×don’t have</td></tr><tr><td>Supermarket</td><td>Disneyland</td></tr><tr><td>Hospital</td><td>Library</td></tr><tr><td>Park</td><td></td></tr></table>	○have	×don’t have	Supermarket	Disneyland	Hospital	Library	Park		- 友達が“so nice”と言っていた話を取り上げ，古川第五小学校周辺の町についてALTはどう思うか話をさせる。 - ピクチャーカードや写真を見せながら，児童が理解しやすい英語を使用して聞かせる。 - ペアで町にあるものを考えさせ，発表した言葉を使って，表に振り分けていく。
	○have	×don’t have								
	Supermarket	Disneyland								
Hospital	Library									
Park										
書くことにつながる力【音声への慣れ親しみ】 児童の気持ちや考えを引き出しながら進め，今後の学習への見通しを持たせる。Do you like books? Do you have a library? Yes/Noの返答に応じてYesは左，Noは右というようにピクチャーカードを黒板に貼っていき，haveとdon’t haveの違いに気付かせる。なお，1時間目は音に集中させるために文字表記がないピクチャーカードを使用する。										
5 ALTが住んでいた町の紹介カードを見て，単元の活動に見通しを持つ。 This is my town ○○ is nice. We have a big park. You can enjoy seeing flowers. You can read books in beautiful flowers.	- 話の内容を児童に推測させるよう伝え，聞き取った言葉を基に，ALTとのやり取りで内容を確認する。 - 聞き取れた音でも意味が分からない言葉は，ALTに簡単な言葉で言い換えてもらうように指導者が働き掛ける。 - ALTの町にあるものは，自分たちの町にもあるかどうか考えさせるやり取りを行う。 ALT: <u>This is my town</u>. My town’s name is ○○. <u>○○ is nice</u>. <u>We have</u> a big park. We can enjoy running. We can enjoy sports. <u>We can</u> enjoy seeing many flowers. <u>I like reading</u> books in beautiful flowers.									
言語活動【出会い，必要感・必然性】，相手意識【思いのかかわり】 指導者が作成した紹介カードを使って話すことで，児童に単元のゴールのモデルを示し，学習の見通しを持たせるとともに，相手に伝えるための手段として，紹介カードのよさを感じさせる。ALTの住んでいたアメリカの町を紹介することで，紹介する活動への興味を高めるとともに，自分だったらという思いを児童に持たせる。										

展開	6 課題をつかむ。 町に施設があるかないかを聞き取ろう。	課題を示すことで、児童に見通しを持たせると共に、今日の学習が、単元のゴールにつながっていることを意識させる。
	7 施設名に慣れ親しむ。 【Let's Listen2】に取り組む。 【Let's Chant】に取り組む。	- 外国語を通して英語の音声やリズムなど、日本語の違いに気付かせる。 - リズムに乗って何度も言わせることで、施設名に慣れ親しませる。 - 本時で触れた言葉を使うことで安心感を持たせ、聞いて言うことができたという思いを持たせる。
	♪ We have, we have, we have (a park). ※ ♪ () 内の語句を替えて慣れ親しませる。 ♪ We don't have, we don't have, we don't have (a library).	
	ポインティングゲームや集中力ゲームに取り組む。	- ペアで行うことを告げる。 - 個人の競争からペアでの協力が必要な活動へと段階的に変化させることで、相手意識を持たせる。
	書くことにつながる力【音声への慣れ親しみ】 答えの確認を行いながら、児童に施設名を言わせたり、全体で繰り返し発音させたりすることで、施設名に慣れ親しませる。また、変化のある繰り返しを意識した活動を行いながら、施設名を何度も聞かせる。	
終末	8 これまで出てきていない施設で、伝えたい施設はないか考える。	今日の資料以外で、ALTの先生の友達に伝えたい他の施設がないかを聞く。
	書くことにつながる力【気持ち】 児童が伝えたいという思いを持つことができるように、資料にないものも次時には用意することを伝える。	
	9 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 10 挨拶をする。	- 本時のねらいに即して児童を評価する。 - 挨拶をする。

時	児童の活動	指導者（担任，ALT等）の活動と使用英語例
導入	1 挨拶をする。 2 単元のゴールを確認する。 3 【Let's Listen 1】 ・ 自分の住む地域について説明している音声を聞き、誌面にある6つの町の絵のうち当てはまる町を選んで記号を書く。 ・ 自分の町や自分のことと比べながら質問に答える。	・ 全体に挨拶した後、ペア同士で挨拶をさせる。 ・ 具体的なモデルを示して確認し活動の見通しを持たせる。 ・ 音声を聞かせる前に誌面にある町について児童とやり取りをする。町にあるものを発表させることで、あらかじめ町の様子をつかませておき、どの児童も安心して意欲的に音声を聞けるようにする。 What can you see in this picture? Oh, this is a park. Do you like it? Anything else? ・ 誌面の施設や町について自分の町と比べながら考えさせ、単元のゴールにつながる活動であることを意識させる。 Do you like <u>A</u> town? Do you have ~ in <i>Furukawa Daigoshogakko</i> town?
		書くことにつながる力【音声への慣れ親しみ】 正解・不正解で終わらせず、絵に関する like や have を使った質問をすることで、課題を自分のことと捉えられるようにさせると共に、施設名を繰り返し聞かせ、自然に耳に慣れ親しませる。
	・ 指導者とのやり取りを参考に、2つの町のどれが好きかペアで伝え合う。	・ 児童がよいと思う町を選び、その理由を言えるように、ペア活動の前の児童とのやり取りを多くする。 T: Which town do you like? ALT: I like <u>D</u> (町の記号). T: Why? ALT: I like running. I can run in this park.
		相手意識【思いのかかわり】 自分の思いを伝える経験をさせるようにする。また、I like <u>□</u> と相手が好きな町を言った後に Why?と尋ね、互いに友達の考えを聞き合うことを大切にさせる。理由については、日本語で言ってもいいように伝え、安心感を持たせる。
展開	4 課題をつかむ。 町にある施設やない施設を伝え合おう。	・ 本時の学習の見通しを持たせるとともに、単元のゴールを確認させる。
	5 施設名や施設が「ある」や「ない」の言い方に慣れ親しむ。 ・ オリジナル「Let's Chant」に取り組む。 ・ ポインティングゲームに取り組む。 ・ カード集めゲームに取り組む。	・ リズムに乗って何度も言わせることで、施設名に慣れ親しませる。 ・ 個人の競争からペアでの協力が必要な活動へと段階的に変化させ、相手意識を感じさせるようにする。 ・ カードのあるなしだけでなく、「どうぞ」「ありがとう」などの一言を言うようにさせる。 S1: Do you have (a park)? S2: Yes, I do. Here you are. S1: Thank you. S2: Do you have a station? S1: No, I don't. Sorry. Bye. S2: Thank you.
		書くことにつながる力【音声への慣れ親しみ】 変化のある繰り返しを行い、紹介カード作成に関わる施設名や表現について、ゲームを楽しみながら、慣れ親しむことができるようにする。また、文字への意識を育てるために、文字表記があるピクチャーカードを使用する。

	6 【Let's Listen3】 登場人物が住んでいる地域についての話を聞き、表を完成させる。	・ 全てを聞き取ることよりも、聞き取ることができた単語を使って、大まかな内容を捉えることができればよいことを伝え、児童に安心感を与える。 ・ 児童が聞き取ることができた言葉を使いながら、やり取りを行い、地域のよさを表現する方法を理解する。
	書くことにつながる力【音声への慣れ親しみ】 単に答え合わせをするのではなく、聞き取ることができた単語や表現を発表させ、その言葉から大体の内容を考えさせる。その後、児童から発表された言葉を使って、Do we have mountains? Do we have beautiful mountains? Can we go hiking there? Do you want to go hiking in beautiful mountains? などと尋ね、地域のよさを、have を用いながら、理由を付けて表現する言い方について、慣れ親しませる。	
	7 【Small Talk】 指導者のモデルを参考にして、ペアで地域のよさを伝え合う。	・ 指導者の町のよさを紹介するカードを示しながら、町のよさを伝えることで、活動のモデルを児童に示す。 ・ 指導者の発表内容に関するやり取りを行いながら、児童に慣れ親しませたい表現を強調して示していく。 is nice. We have . I like . I can enjoy .
	相手意識【思いのかかわり】 指導者は、周りの反応を確認して話したり、児童の答えを取り上げながら会話を継続させたりすることで、相手とかかわりながらコミュニケーションを図る姿を見せる。また、I like .と相手が地域のよさを言った後に Why と尋ね、友達の考えを聞き合うことを大切にさせる。理由については、日本語で言ってもいいように伝え、安心感を持たせる。	
	8 「もじもじタイム」 カード集めゲームで集めて手元にある施設とない施設を1つずつ選んで書く。 書く文例 <u>We have (a park).</u> <u>We don't have (a library).</u>	・ 今までの活動の中で、児童自身が選んで、声に出してきた施設名を書かせるようにする。 ・ ワードボックスから言葉を見て選んで書けるワークシートを用意する。また、We don't haveについては、誌面に印刷しておき、紹介カード作成に必要な部分のみ書かせ、児童にとって、負担が少ないようにする。
	書くことにつながる力【書く】 カード集めゲームで自分が集めた施設と、友達に渡してなくなったカードを書かせる。また、書いた文を用いて、この後ゲームを行うことを伝えることで、書く意味を持たせる。	
	9 書いた文を使って、同じ組合せを選んだ人を見付けるマッチングゲームに取り組む。	・ 選んだ施設名が自分と同じ人を見付けたら、指導者の所に来て、「Finish!」と言うように伝える。
終末	10 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。	・ 本時のねらいに照らして児童を評価する。
	11 「イングリッシュブック」に施設名を書く。	・ 自分が書き残したいと思った施設を書き写させる。
	書くことにつながる力【書く】 「イングリッシュブック」…年間を通して取り組ませ、自分だけの英語の本を作らせる。児童が授業や生活場面で出会った英語の中で、自分が書き残していきたいと思う英語を、ジャンル分けされたページに書いていく。	
	12 挨拶をする。	・ 挨拶をする。

時	児童の活動	指導者（担任，ALT等）の活動と使用英語例
導入	1 挨拶をする。 2 【Small Talk】 校内の先生が伝える，町のよさを紹介するスピーチを聞いて大まかな内容を捉える。	- 全体に挨拶した後，ペア同士で挨拶をさせる。 - 最初に紹介を行う指導者の名前を伝え，どのような町が好きかを予想させることで，相手のことを考えながらかかわろうとする態度への意識付けを図る。 - 聞き取った言葉から，大まかにどんな内容だったかをペアで話し合わせる。
	3 課題をつかむ。 自分の町を紹介しよう。	課題を示すことで，児童に本時の見通しを持たせ，紹介カード作成への意欲喚起を図る。
展開	4 【Activity 1】 紹介例を参考に，自分の町にある施設とない施設について発表する。 5 【Let's Chant】 ・ “We have a park.” ・ “I like my town.” 6 「もじもじタイム」 自分の町を紹介するカードを作成する。	- 発表する相手を替え，発表を繰り返し行うように伝える。その際は，相手の考えを予想しながら聞かせる。 - 異なるリズムのチャンツに取り組ませることで，意欲を持続させながら施設名に慣れ親しませる。 - 聞いた後に，どんな言葉が出てきたかを確認してからチャンツを言うことで，児童に安心感を持たせる。 - カードを作成する目的を再確認する。 - カードには，文字の他，読み手に内容が伝わるように，イラストを描いてもよいことを伝える。
	7 ペアで紹介カードを使って発表練習を行い，アドバイスをし合う。 8 学級全体でカードを発表し合い，感想を伝え合う。	- お互いのカードを見せ合い，よりよくなるようにアドバイスをし合うように伝える。 - ペアでの練習やアドバイスを参考にして書き直す時間を与え，グループ発表への自信につなげる。 - 終わりの時間になるまで，教室内を歩きながら次々発表を行い，互いに感想を伝え合うように声掛けをする。
終末	9 本時の活動を振り返り，振り返りカードに記入する。 10 中学校の先生の話聞く。 11 挨拶をする。	- 本時のねらいに照らして児童を評価する。 - 小中連携の仕掛けについて話をしてもらう。（別紙参照） - 挨拶をする。

時	児童の活動	指導者（担任，ALT等）の活動と使用英語例
導入	1 挨拶をする。 2 中学校の先生からのお願いについて確認する。	- 全体に挨拶した後，ペア同士で挨拶をさせる。 - 中学校２年生の英語の授業の資料となる「住みよい町ポスター」を作成することを確認し，学習に目的意識を持たせる。
	言語活動【出会い，必要感・必然性】，相手意識【思いのかかわり】 中学生に理想の町について考えたことを紹介することを確認し，相手意識や書く必然性がある状況を生み出す。	
	3 指導者とALTのやり取りを聞いて，話の概要を理解しようとしながら聞く。 ※ 児童に慣れ親しませたい語彙や表現を下線部で示す。	ALTに，自分の町に他にどんな施設があったらよいか聞き，答えてもらうやり取りを通し，これから学習で取り組んでいく基になるモデルを示す。 T: Your town is so nice. I want to see beautiful flowers in the big park. Do you want anything else in your town? ALT: Yes, I do. <u>I like reading</u> books. <u>I want to read</u> many books. <u>I want a library.</u>
	書くことにつながる力【音声への慣れ親しみ】 児童に聞かせる英語に，これまで学習してきた施設名や表現を使うことで，今までの学習が結び付き，英語の会話でも理解できたという満足感を味わわせ，今後の意欲へとつなげさせる。	
	4 ALTの地域にあるといいなと思う施設を加えた町の紹介ポスターを見て，単元の活動に見通しを持つ。	- 言語活動のゴールをポスターで示すことで，学習に見通しを持たせ，主体的に学べるようにさせる。 - 住みよい町を考えながらも，前時まで考えてきた町のよさへの思いを持ち続けさせるために，don't have の表現は表記しないで示す。
	This is my town ○○ is nice.  We have a big park.  We can enjoy sports. <u>I like reading books.</u> <u>I want a library.</u> 	ALT: <u>This is my town.</u> My town's name is ○○. <u>○○ is nice.</u> <u>We have</u> a big park. We can enjoy running. We can enjoy sports. <u>We can</u> enjoy seeing many flowers. <u>I like reading</u> books in beautiful flowers. But <u>we don't have</u> a library. I want to read many books. I want a library. Thank you.
	書くことにつながる力【音声への慣れ親しみ】，言語活動【出会い】 ALTが第1時にモデルとして示した自分の町を紹介するカードに文を加える形で，どんな施設があればもっとよいと思うか，ポスターを使って発表してもらおう。また，ポスターで使う表現を，導入で担任とALTが会話で話した内容にすることで，児童に理解できたという達成感を味わわせ，自分もやってみようという気持ちにさせる。	
	5 課題をつかむ。 地域にあってほしい施設を考えよう。	課題を示すことで，児童に見通しを持たせると共に，今日の学習が，単元のゴールにつながっていることを意識させる。
	6 【Let's Watch and Think1】 登場人物がそれぞれの地域について説明し，ほしい施設について話す映像をデジタル教材で視聴する。	3種類の映像を1回ごとに区切って聞かせ，ペアでおおよその内容について話し合わせる。 - 聞き取れた単語や表現を取り上げ，その言葉を使いながら児童とやり取りを行い，ほしい施設について尋ねていく。 - ほしい施設とその理由を言わせる。

展開	7 推理ゲームやアルファベット集めゲームに取り組む。	- 個人の競争からペアでの協力が必要な活動へと段階的に変化させることで、相手意識を感じるようにさせる。 - アルファベットを使った2種類のゲームを行い、文字に慣れ親しませる。
	【推理ゲーム】 A: Do you have “a”? B: Yes, I do. B: Do you have “a”? A: No, I don't. A: Do you have “p”? B: Yes, I do. A: Is this “park”? B: Yes, it is.	【アルファベット集めゲーム】 A: I want “P”. B: You are lucky. I have “P”. Here you are. B: I want “Q” A: I'm sorry. I don't have “Q”. C: I want “R” D: You are lucky. I have “R”. Here you are. A&C: Finish! We have “P”・“A”・“R”・“K”, “PARK”.
	8 【Let's Watch and Think2】 登場人物が自分たちの地域を紹介しているスピーチを聞き、それについて2人の友達が感想を言っている映像を視聴し、感想をまとめる。	- デジタル教材で登場人物が自分たちの町を紹介している様子を視聴し、紹介のイメージを持たせる。 - 最初に2人の地域紹介の部分だけを聞かせ、ペアでおおよその内容について話し合わせる。その後で、自分だったらどんな感想を言うか考えさせた後に、感想発表を行っている映像を見せることで、感想のイメージをつかませる。
	9 【もじもじタイム】 地域にあってほしい施設について考えて書く。	- 地域にあってほしい施設と、その理由を書かせる。 - 選択肢から言葉を選んで書けるワークシートを用意し、安心感を与える。 書く文例 <u>I like (soccer).</u> I want <u>(a big park).</u>
	書くことにつながる力【書く】 児童自身が欲しいと思って選んだ施設名を書かせる。また、負担とならないように、4線のワークシートに、言葉を選んで書き写しができるようにさせる。	
終末	10 グループになり、地域にあってほしい施設について理由を付けて発表し、感想を伝え合う。	話の聞き方を意識させる。感想では、簡単な英語や日本語でもよいので、気持ちを伝える大切さを確認する。 A: I like soccer. I want a big park. I want to play soccer in a big park. B: Your idea is nice! I like soccer, too. C: It's a great idea! I want to play soccer in my town, too.
	言語活動【内容】、相手意識【思いのかかわり】 自分の考えを持ち寄って、グループで話し合わせることで、多様な意見に触れる機会を与え、他者に配慮する気持ちを育てる。相手の話を表情やうなずきなどで、リアクションをしながら聞くことを意識するように伝え、相手意識を大切にさせる。	
	11 グループで、住みよい町について考える。	自分の考えを持ち寄って交流し、グループで練り合うように伝える。
終末	言語活動【内容】、相手意識【思いのかかわり】 必要な施設が同じ人同士でグループを組ませることで、学習課題をより自分にとって思い入れのあるものとして捉え、地域の課題に向かって協働して学習に取り組むようにさせる。	
	12 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 13 挨拶をする。	- 本時のねらいに照らして児童を評価する。 - 挨拶をする。

時	児童の活動	指導者（担任，ALT等）の活動と使用英語例
導入	1 挨拶をする。 2 【Small Talk】 担任と他の指導者が考えた、地域にあってほしい施設を伝えるスピーチを聞いて大まかな内容を捉える。	- 全体に挨拶した後，ペア同士で挨拶をさせる。 - 聞き取った言葉から，大まかにどんな内容だったかをペアで話し合わせる。 - スピーチの内容に触れ，Do you want () for your town? Why?といったやり取りを行い，ほしい施設と共に理由を考えさせるようにする。
	書くことにつながる力【音声への慣れ親しみ】【気持ち】 最初はスピーチだけを聞かせて，内容を考えさせる。その後に，指導者が作成したポスターを示して読ませることで，音声言語と文字言語のつながりを感じさせる。また，複数の指導者が作ったポスターを掲示することで，ポスター作成で必要となる表現を目で触れさせ，児童の書くことへの慣れ親しみや安心感を持たせることへつなげる。	
	言語活動【必要感・必然性】，相手意識【思いのかかわり】 2人の指導者がそれぞれ考えたものを，話し合って1つにまとめたポスターを示し，グループで行う活動の見通しを持たせる。また，複数の考えをポスターにまとめさせることで，相手とかかわりながら話し合う必然性を与える。さらに，誰にとつての住みよい町をイメージするのかという，対象を決めさせることで，相手意識を持つ必要感を与える。	
展開	3 課題をつかむ。 住みよい町を紹介しよう。	課題を示すことで，児童に本時の見通しを持たせ，住みよい町を考え，紹介しようとする意欲の喚起を図る。
	4 「もじもじタイム」 住みよい町を紹介するポスターをグループで作成する。	- ポスターを作成する目的を確認させる。 - ポスターには，文字の他，読み手に内容が伝わるように，イラストを描いてもよいことを伝える。
	言語活動【必要感・必然性】 児童自身が持つ思いを表現できる活動を設定し，「伝えたい」「書きたい」という思いを持たせる。また，多様な意見に触れる機会を作るため，グループで行わせる。	
	書くことにつながる力【書く】 読み手が読みやすいと感じられるようにするためには，どのようなことに注意するべきかを「自分の町を紹介しよう」の経験を思い出しながら話し合わせることで，適切な英語の表現となるようにさせる。4線が描かれた紙を用意し，その紙に英語を書いたら，ポスターに貼れるようにすることで，グループで協力してポスターを作成できるようにする。	
	5 グループでポスターを紹介する練習を行い，アドバイスをし合う。 6 全体でポスターを用いながら発表し合い，感想を伝え合う。 7 中学校にポスターを貸すことを確認する。	- 相手に伝わるポスターとなるように，児童同士アドバイスをさせながら，ポスターを改善させる。 - 練習したことやアドバイスを受けたことを参考に，書き直す時間を与えることで，全体発表への自信につなげる。 - ポスターを見せ，相手の様子や反応をうかがいながら，発表するようにさせる。 - 友達のポスターや発表のよさを考えながら聞くように声掛けする。 - 今日の発表ポスターを使って中学生が授業を行う様子をビデオに撮り，後日見ると伝える。
終末	8 本時の活動を振り返り，振り返りカードに記入する。 9 「イングリッシュブック」に施設名を書く。 10 挨拶をする。	- 本時のねらいに照らして児童を評価する。 - 自分が書き残したいと思った施設を書き写させる。 - 挨拶をする。

中学校との連携のしかけ

【第3時終了後】

中学校外国語科の教師に、第3時の「町のよさを伝えよう」の授業を参観してもらう。授業終了後に、中学校教師から児童へ向けて、感想を述べてもらう流れの中で、今回作成したものを中学校の授業で使わせてほしいという旨を伝えてもらう。



中学校教員

(初めに授業の感想やよさを伝えてもらう。)みんなが作った紹介カード(後にポスター)を、中学校2年生の英語の授業で使わせてくれないかな。今度、「住みよい町」という学習をするのですが、地域に住む人の意見を取り入れながら考えていきたいと思っています。この古川第五小学校の周りが、今あるよさを大切にしながら、もっと住みよい町になるために何が必要か、小学校6年生のみんなの考えも教えてください。そのために、今日発表した「町のよさ」に、「更に住みよい町にするためには、こんなものがあるといいと思う」ということを付け足して、みんなの意見を教えてくださいませんか。

※ 町…大崎市・古川地域・古川第五小学校区・居住地区の4つが考えられるが、今回は古川第五小学校区と押さえる。中学校では範囲を広げ、大崎市か古川地域で考えるようにする。

【第5時】

グループで住みよい町について考え、ポスターを作成している様子やポスターを使って発表している様子をビデオに撮り、後日中学2年生に見てもらう。

【第5時終了後】

作成した「理想の町ポスター」を中学校に届けて活用してもらう。中学2年生の英語の授業では、住みよい町を考えるために、「町に住む人の情報を集めよう」という取組の1つとして、小学生のポスターを読んで話し合ってもらう。その話し合いの様子をビデオに撮り、後日小学6年生に見せて、自分たちの作成したポスターが使われている喜びを味わわせる。



中学校教員

古川第五小学校の6年生が考えた「理想の町のポスター」です。ポスターを読み合いながら、その考えについてどう思うか話し合ってみましょう。

I like this poster because I like soccer, too. We couldn't play soccer in the park.
If we have a big park, I can play soccer, and we can enjoy many sports.



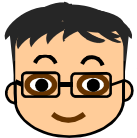
中学2年生

【本単元に小中連携を生かすねらい】

- 「小学生の意見を知りたい」という中学生に向けて、ポスターで伝えるという明確な目的意識から、児童は「理想の町」を考える必要感を持つことができる。
- 中学校の英語の授業で活用するために必要なポスターということから、児童が活動を行う必然性を生み出すことができる。
- 中学生に見せるポスターであることから、児童は相手意識を持つことができる。
- 児童が理想の町を考える際には、「だれにとって」住みよい町を目指すのかという視点を与えることで、相手意識が生まれる。
- 自分たちが作成したポスターを使って、中学生が実際に話し合っている様子を見ることで、考えてよかった、書いて(作って)よかったという、満足感や成就感を味わうとともに、またやってみよう、中学生のように英語を使ってみようという、次への意欲が生まれる。中学生への憧れを感じ、それは同時に中学校への期待の膨らみや親近感につながる。

「もじもじタイム」について

- 授業の中で、実際に文字を書く活動を「もじもじタイム」の時間として設定する。
- 音声に十分慣れ親しんだ表現について「書きたい」という意欲を持って、アルファベットを書いたり、英語の語句や文を書き写したりすることを行う。
- 単純な繰り返しの練習や児童にとって過度の負担にならるように配慮し、書く目的や意味があり、楽しみを持った活動を目指す。
- 文字を書く際には、自己決定の場を設けることで、児童が「自分の気持ちを表現した」という思いを少しでも持つことができるように工夫する。
- 文字を書くことに対する児童の様々な実態に配慮し、4線が描いてある範囲や書き写しの量が異なるものを選択できるように工夫する。



It's 「もじもじターイム」！

〇〇に、自分の考えに当てはまるものを選んで書きましょう。書いたものを使って、（ ）をします。 ※（ ）の中はアクティビティやゲームなどの活動名が入る。

前回と今日の時間でたくさん聞いたり見たりした言葉だから、書けるかもしれない。

これを書いて行う次の（ ）は、なんだか楽しそう。

この文を書くことは、5時間目に行う発表に使えるそうだわ。



イングリッシュブックについて

- 学習したことを一冊の本に仕上げるという意欲付けを図る。
 - 授業を通して自分が書き残したいと思った英語を画用紙に書き写していき、学年の終わりには、英語が書かれた自分だけの本が出来上がるようにする。
- 【いつ】…授業の終末に行う。休み時間などに児童が自分で書きたいと思った時に書く。
- 【どこで】…書きたい時に手元に持って来る。児童自身が保管する。
- 【何を】…自分が書き残したいと思った文字や語句、表現を書く。
- 【どのように】…イングリッシュブックに直接書く。ワークシートに書いたものを貼り付ける。

自分で選んだ言葉で作るアルファベットのページ

C

c

CAT



が



なめた

D

d

DOG



が

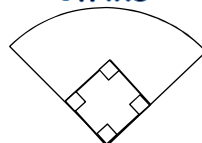


をたたく

ABCの順番ではなく自分の興味のあるものから

S

Strike

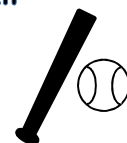


B

Ball

O

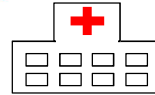
Out



町のことに关わる言葉を集めていく



PARK



hospital

shopping



興味のあるスポーツを書き溜めていく。

Soccer
Tennis
Baseball

Wheelchair
Basketball

I can swim.

古川第五小学校の外国語活動の研究の取組

「研究主題」

進んでかかわり合い、生き生きと活動する児童の育成（二年次）
 ― 学びの連続性を考えた外国語活動の授業づくりを通して ―

「研究主題の捉え」

- 「進んでかかわり合い」とは、相手の話していることを聞いて理解しようとしながら聞いたり、知りたいことを質問したりするなど、身近な人とのコミュニケーション活動に積極的に取り組む姿と捉える。
- 「生き生きと活動する」とは、発達段階や児童の実態に応じた言語活動に楽しみながら取り組んだり、自分の思いや自分自身のことを伝えようとしたりする意欲の高まりが見られる状況だと考える。
- 副主題の「学びの連続性を考えた外国語活動の授業づくり」については、学習指導要領に新たに示された「書く」ことの素地となる活動に焦点を当て、「書くことにつながる力」を育むための授業づくりに、低学年から系統的に取り組んでいくことと捉える。
- ＊ 本校では、「かかわり」についての表記は、人と人との柔らかな触れ合いを育みたいという思いから、「関わり」ではなく、「かかわり」を用いている。

「研究目標」

進んでかかわり合い、生き生きと活動する児童を育成する外国語活動の在り方を、低学年から中学年、中学年から高学年、高学年から中学校への学びの連続性を考えた外国語活動の授業づくりを通して明らかにする。

「研究の内容」

- （１） 学びの連続性を考慮した授業づくり
 - 【視点１】 興味関心を持続させるためのアクティビティの工夫
 - 【視点２】 コミュニケーション能力を育む学習形態の工夫
 - 【視点３】 書くことにつながる力を育む工夫
- （２） 授業を支えるための環境づくり
- （３） 次学年及び小学校から中学校への円滑な接続

「文字言語の捉え方」

低学年部	中学年部	高学年部	中学校
・たくさんの言語に触れさせる。絵と音声を重視し、絵カードに英語表記は付けるものの、読ませはしない。	・単語や表現に慣れ親しませながら、英語表記にも興味を持たせる。	・アルファベットの音と単語の読みに慣れ親しませ、興味のある語や表現を書き写すことに慣れ親しませる。	・覚えた英単語や表現を書くことができる。
【絵カードの文字表記の大きさ】 小 → 中 → 大			
【板書】 絵カードやイラスト中心 → 簡単な単語は板書 → 使う表現を板書 ※ 語句や表現の導入時など、音声言語中心の内容の時は、文字表記をなくす場合もある。			

「ネームカードの使用」

外国語活動の授業の際、児童は自分の名前がアルファベットで表記されたネームカードを首に提げて参加することで、自分や友達の名前を書く時に、ネームカードの文字を見て負担なく活動できるようにする。

低学年部	中学年部	高学年部
・ALTが名前を呼べるようにする。 ・教師が作成する。	・ローマ字を学習したことを生かす。 ・教師が作成する。	・アルファベットを学習したことを生かす。 ・児童が作成する。

「風の子イングリッシュ」の実践

昨年度、英語に慣れ親しませるために英語を聞く場面を増やそうと考え、昼の放送を活用し、「風の子イングリッシュ」の時間を設け、教員が輪番で「一言 English」を紹介した。今年度はこの活動を更に発展させ、英語に触れ、文字を身近に感じる機会を作る工夫をしていく。計画を作成する際は、季節や行事に絡めながら「一言 English」の内容を決め、児童がより興味を持って親しむことができるようにする（図1）。また、話す担当を小学校教員だけにするのではなく、ALTや栄養教諭、中学校の生徒や教員の協力を得ながら、多様性を持たせていきたい。校内に「風の子イングリッシュ」コーナーを設け、話された一言を文字として掲示したり、各学級にカードとして配ったりすることで、児童が日常や授業で英語を使う姿が見られるようになることを期待していきたい。

今日の風の子イングリッシュは、「君ならできるさ」という意味の、You can do it.です。持久走記録会に向けて、目標を立てて頑張っている友達に、言ってあげよう。それでは、一緒に、You can do it.スマイルでもう一度、You can do it.それではまたね。Good bye.

曜日	担当	今日の一言 English	解説
10/21	〇〇 〇	You can do it. 「できるよ」「大丈夫」	来週に持久走記録会があるので、努力や挑戦している友達に向けて、言ってあげたい言葉です。
10/〇	〇〇 〇	 行事に関連させたり、内容に系統を持たせたりすることで、子供たちに興味を持たせる工夫を行う。	
10/28	〇〇 〇	You did a good job. You did a good job, too. 「頑張ったね」「君もね」	持久走記録会で走り終えた友達に向かって言ってあげたい言葉。言われた方は言葉を返し、お互いに頑張りを称賛できるとより素敵です。

図1 風の子イングリッシュの一例